

令和6年度 全国学力・学習状況調査 能勢町の結果概要について

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査実施日 令和6年4月18日（木）

※後期課程の生徒質問紙調査は、MEXCBT（メクビット）システムを利用し、タブレット端末より回答した。能勢ささゆり学園では、4月15日（月）に実施している。

3. 調査対象 能勢町立能勢ささゆり学園 6年生及び9年生

4. 調査事項及び内容

(1) 教科に関する調査

6年生：「国語」「算数」

9年生：「国語」「数学」

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5. 能勢町の参加状況

▶ 6年生実施児童数 46人

※集計対象児童数 全国；947,364人 大阪；64,339人

▶ 9年生実施生徒数 40人

※集計対象生徒数 全国；875,574人 大阪；58,727人

6. 公表に当たって

- 本町は義務教育学校1校であるため、学力における調査結果の明確な数値による公表は行わない。
- 本調査により測定できるのは、学力や学習状況、生活状況の特定の一部であることに留意する必要がある。

7. 調査結果概要

①平均正答率の府・国との比較

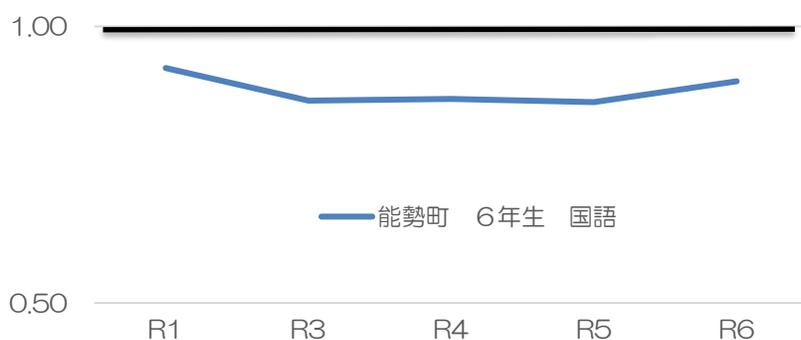
※大阪府比・全国比は、±5ポイント未満は「同等」、5ポイント以上上回る場合は「上回る」、5ポイント以上下回る場合は「課題がある」と表記

区 分	6年生		9年生	
	国語	算数	国語	数学
大阪府比	同等	課題がある	課題がある	課題がある
全国比	課題がある	課題がある	課題がある	課題がある

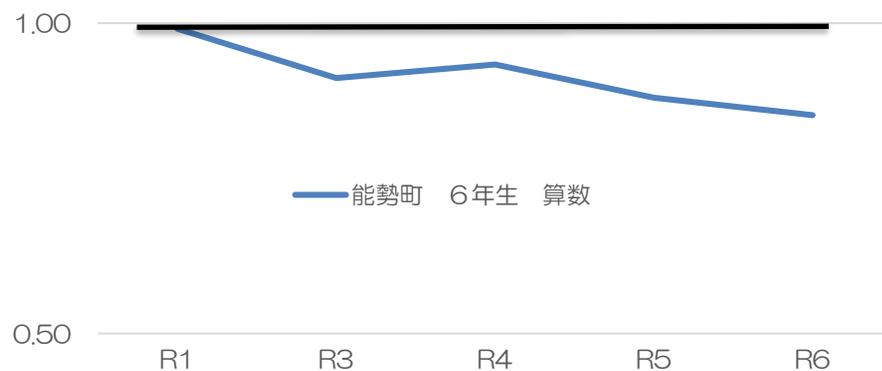
②平均正答率の国との比較

※全国平均正答率を1としたときの能勢町各教科平均正答率の推移

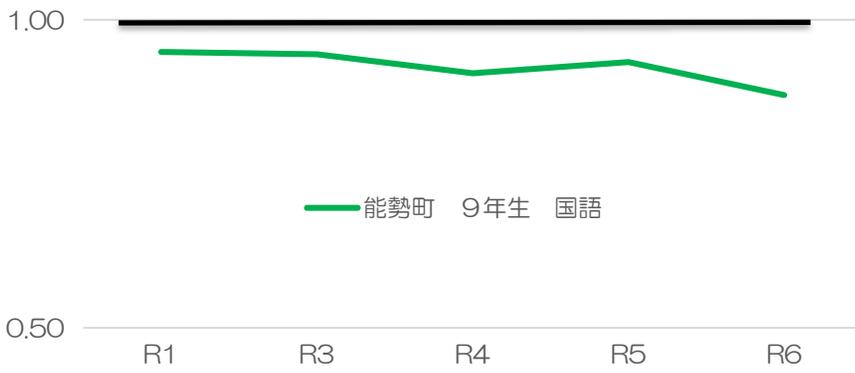
・6年生 国語 経年変化



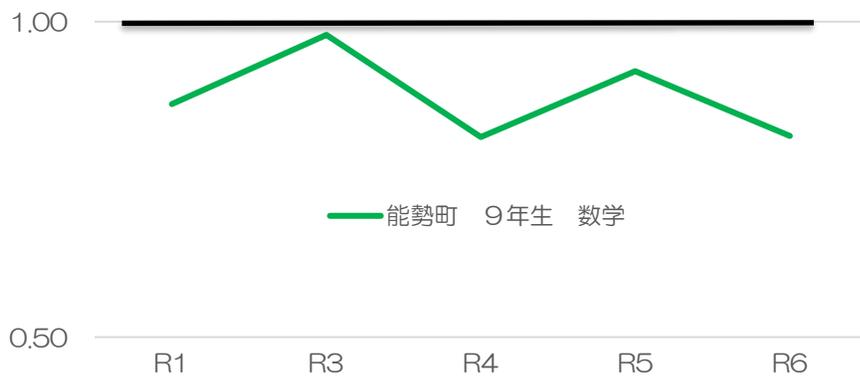
・6年生 算数 経年変化



・9年生 国語 経年変化



・9年生 数学 経年変化



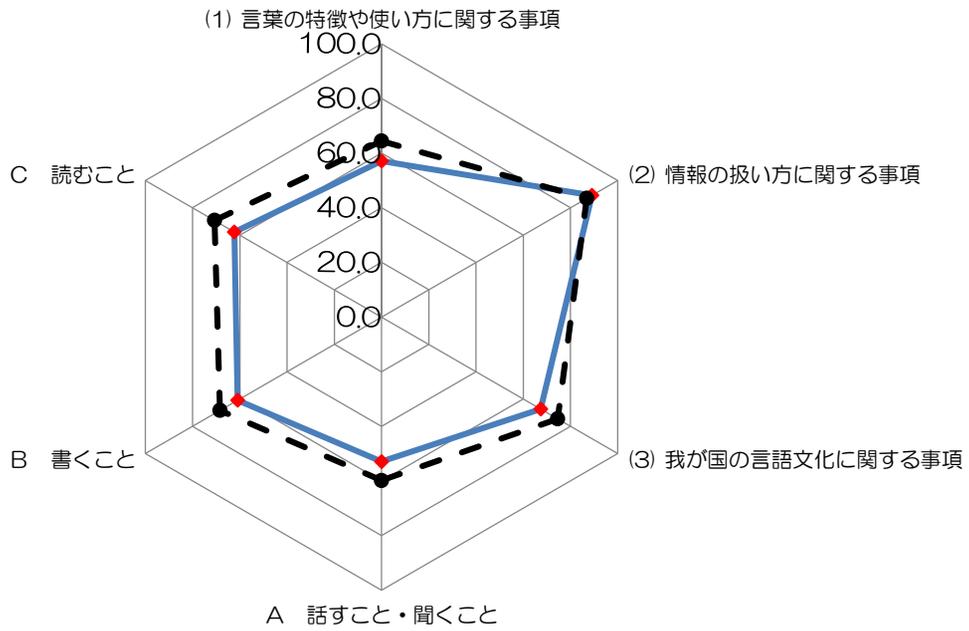
6年生
○国語・算数において全国平均に達していない。

9年生
○国語・数学において全国平均に達していない。

③国語における学習指導要領の内容の平均正答率の状況（％）

【 — ; 6年生、 — — ; 9年生、 - - ; 全国】

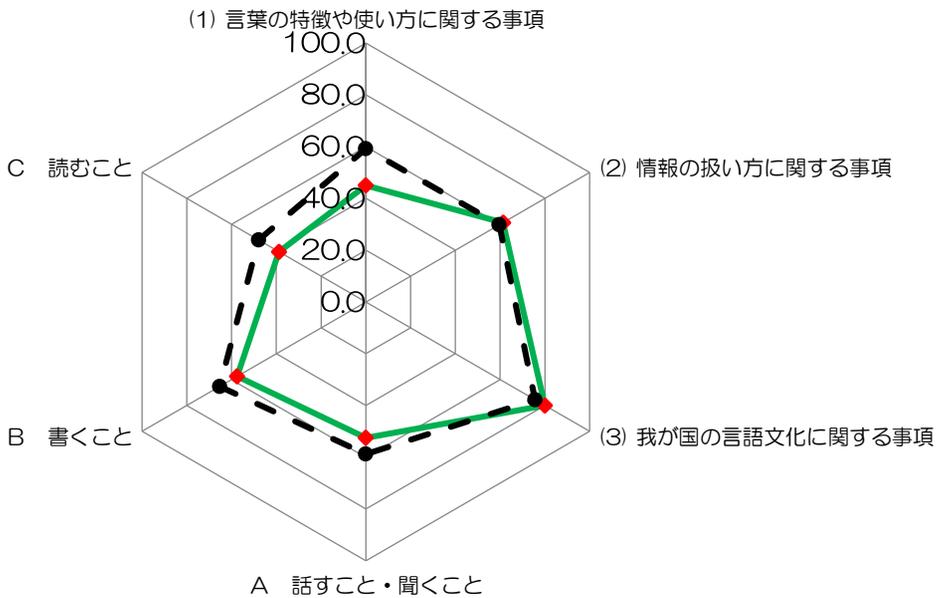
・6年生 国語



○いずれの領域も全国と同等の正答率であった。情報の取り扱いに関する事項において全国を上回った。

○領域ごとの正答率の大きな差は見られなかった。

・9年生 国語

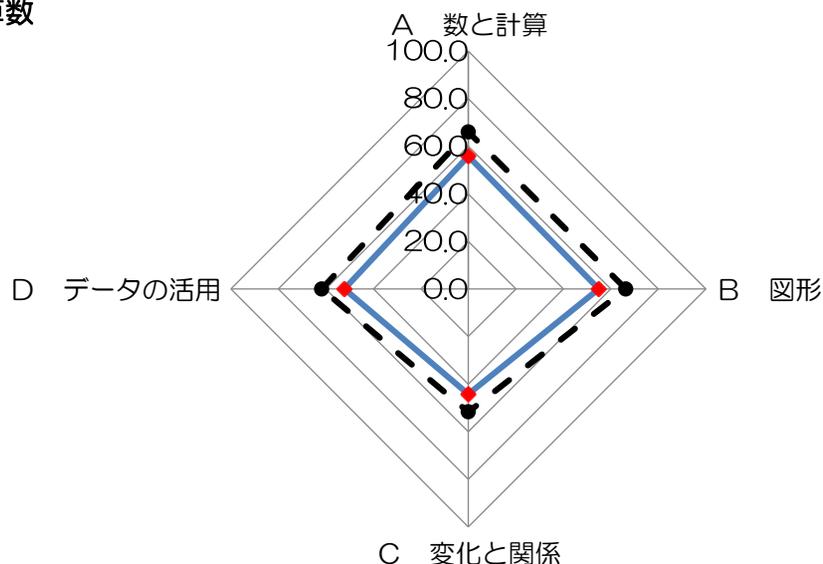


○「言葉の特徴や使い方に関する事項」の中で、漢字の書き取りの設問と、短歌の表現技法を問われた設問の正答率が低かった。

○情報の扱い方や我が国の言語文化に関する事項についての設問では、全国よりも高い正答率となっていた。

④算数・数学における学習指導要領の領域の平均正答率の状況（％）

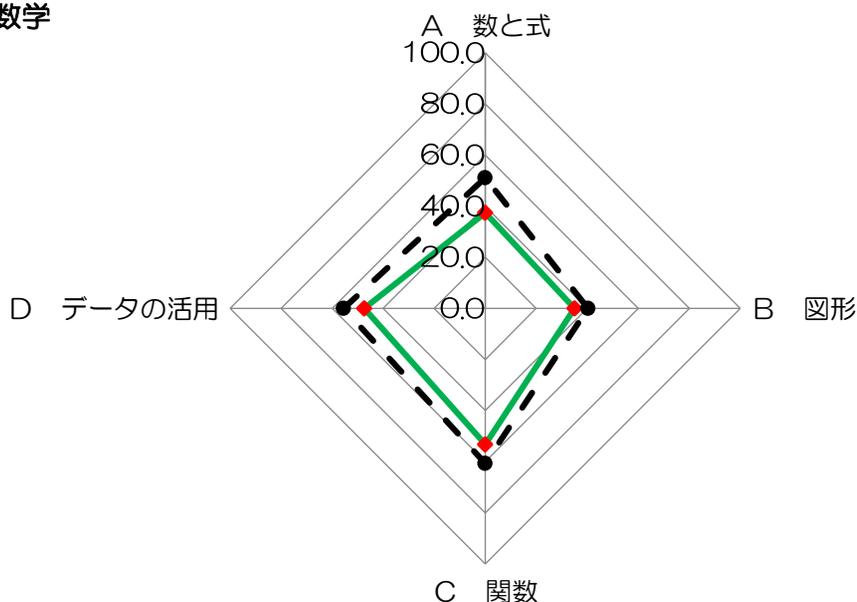
・6年生 算数



○全ての領域において全国、府の平均正答率を下回った。

○特に「A 数と計算」「B 図形」の設問に課題が見られ、問題形式としては「選択式」の正答率が低かった。

・9年生 数学



○全ての領域において全国、府の平均正答率を下回った。

○特に「A 数と式」に大きな課題が見られた。大問1，2の短答式の問題では正答率に10ポイント以上の差が見られ、「等式 $6x+2y=1$ を y について解く」設問では、全国・府と12ポイントの差があった。

⑤通過率（％）の状況

通過率とは、「全国学力・学習状況調査において全国平均正答率70%以上の問題について当該問題における自校の平均正答率が70%以上を通過とし、当該問題のうち、何問通過しているかを割合で表したもの」である。

	教科	R4	R5	R6	
6年生	国語	75	43	43	3問 / 7問中
	算数	66	71	57	4問 / 7問中
9年生	国語	88	63	100	3問 / 3問中
	数学	25	100	60	3問 / 5問中

⑥課題が見られた設問

→以下の設問から見えてきた課題の詳細や分析については、⑧にまとめて記載する。

6年生 国語

▶漢字の書きに関する問題

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

正答 **競技**

▶資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題

- (1) 和田さんは、村木さんの発言④を受けて、発言③の話し方を発言⑤のように変えました。和田さんが話し方を変えた理由として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 言葉の順序に気をつけて短い文で話したほうがよいことに気づいたから。
 - 2 相手に応じて敬語を使ったほうがよいことに気づいたから。
 - 3 まちがった情報をすぐに直したほうがよいことに気づいたから。
 - 4 同じ音で異なる意味をもつ言葉を使わないほうがよいことに気づいたから。

二 和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

「オンライン交流の様子の一部」

▶ 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかをみる問題

3つの条件すべてを満たしたものが正答となる。

- 〇〇〇 (条件)
- 〇 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
 - 〇 「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 〇 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

二 高山さんは、次の【高山さんの文章】の [] に、【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、 [] に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。

※ 大問3三の設問も同様の出題であり、共に課題が見られた。

6年生 算数

▶ 除数が小数である除法の、除数と商の大きさの関係を理解しているかどうかをみる問題

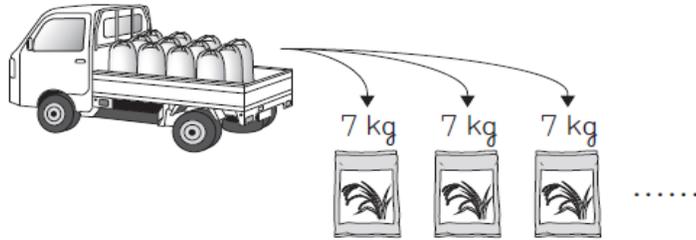
(2) あやのさんたちは、350 kg の米を 1 人に同じ重さずつ配ると、何人に配ることができるかについて考えています。



1 人に 7 kg ずつ配る場合を考えます。

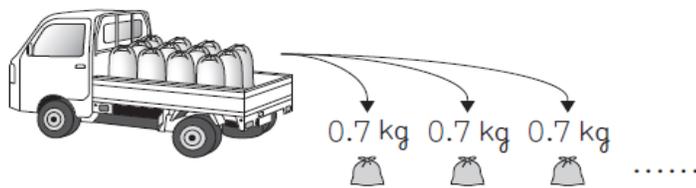
$$350 \div 7 = 50$$

50 人に配ることができます。



1 人に 0.7 kg ずつ配る場合を考えます。

何人に配ることができるのでしょうか。



350 kg の米を 1 人に 7 kg ずつ配る場合と、1 人に 0.7 kg ずつ配る場合を比べると、どのようなことがいえますか。

下の **1** と **2** と、**3** と **4** の中から、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。

350 kg の米を 1 人に 7 kg ずつ配ると、50 人に配ることができます。

1 人に 0.7 kg ずつ配るとき、配ることができる人数は、

50 人より **1** 多い **2** 少ない です。

$350 \div 7 = 50$ です。

$350 \div 0.7$ の商は、50 より **3** 大きい **4** 小さい です。

▶ 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題

(2) 図1のような円柱があります。



図1

図1の円柱を、図2のように切り開くと、展開図ができます。



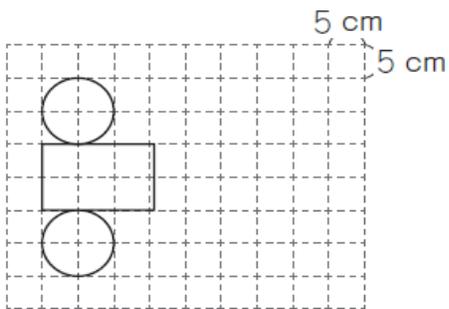
図2

図1の円柱の展開図を、側面の形を長方形にして、工作用紙にかきます。
このとき、長方形の横の長さは、円柱の底面の円周の長さと同じになります。

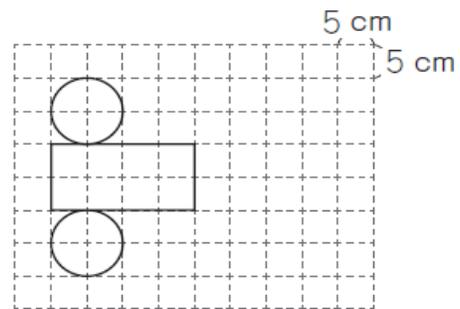
図1の円柱の展開図はどれですか。

下の 1 から 4 までの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

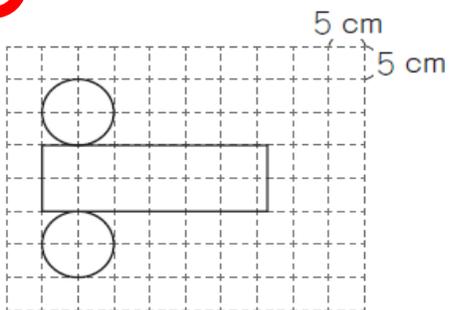
1



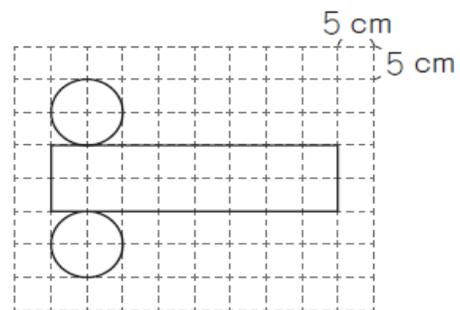
2



3



4



9年生 国語

▶ 話題や展開を捉え、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかをみる問題

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからのように本を選びたいかを具体的に書くこと。
条件2 「話し合いの一部」の誰の発言と結び付くのか分かるように書くこと。

四 「話し合いの一部」の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

藤田さん 私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。

藤田さん そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。(図)のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

今井さん 私は、図書館や書店で本を選んでみます。読みたい本を見付けるのには時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がると感じています。

藤田さん 図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が偏るような状態にはならないでしょうね。

山岡さん そういえば、インターネットでも様々な人のおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

山岡さん フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考える必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

(図) **フィルターバブル現象**
自分の好む情報だけに囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

(解説) インターネットを検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

山岡さん 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている特撮に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん (解説)の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

1 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」をもちに、グループで話題を決めて話し合っています。次の「フィルターバブル現象の資料」と「話し合いの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。
【話し合いの一部】

2つの条件を満たすことに加えて、実際に話すように書けているものが正答となる。

▶ 漢字の書き取りの問題

三 「みちたりた」の——線部のひらがなを漢字に直し、楷書でいてねいに書きなさい。

満ち足りた

▶ 短歌の表現技法を選ぶ問題

- Bの短歌で用いられている表現の技法を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 「風さやか」の部分に、擬人法が用いられている。
 - 2 「庭に月待つ」の部分に、直喩が用いられている。
 - 3 「萩すすき」の部分に、倒置が用いられている。
 - 4 「鯛の声やみし夕暮れ」の部分に、体言止めが用いられている。

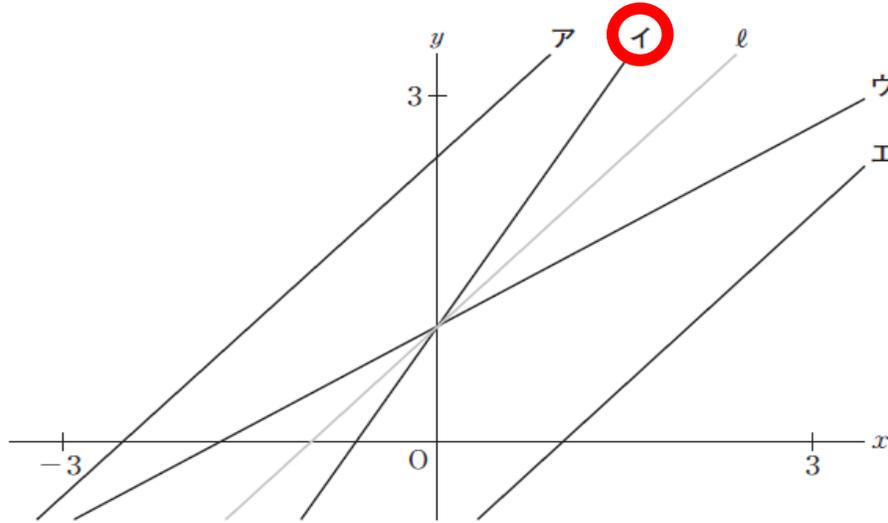
▶ 等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる問題

2 等式 $6x + 2y = 1$ を、 y について解きなさい。 正答

$$y = -3x + 1/2$$

▶ 一次関数の式とグラフの関係を理解しているかをみる

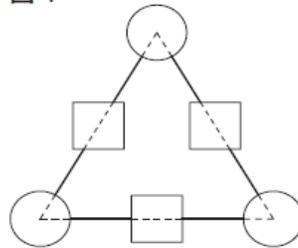
4 一次関数 $y = ax + b$ のグラフについて考えます。下の図の直線 l は $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフです。直線 l に対して、 $b = 1$ を変えずに a の値を 1 より大きくしたときのグラフが、直線アからエまでの中にあります。それを 1 つ選びなさい。



▶ 目的に応じて式を変形させ、その意味を読み取り、事柄が成り立つ理由を説明できるかをみる問題

6 次の図 1 は、正三角形の 3 つの頂点に \bigcirc を、3 つの辺に \square をかいたものです。 \bigcirc には整数を 1 つずつ入れ、 \square にはその \square がかかっている辺の両端の \bigcirc に入れた整数の和が入ります。

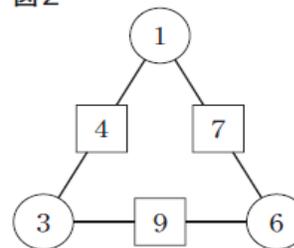
図 1



計算の例

3 つの \bigcirc に 1、3、6 を入れると
 3 つの \square にはそれぞれ
 $1 + 3$ 、 $3 + 6$ 、 $6 + 1$
 の計算結果が入る。
 だから、3 つの \square には 4、9、7
 が入る。

図 2



(2) 次の図は、千夏さんと優真さんが考えてかいたものです。

図 3

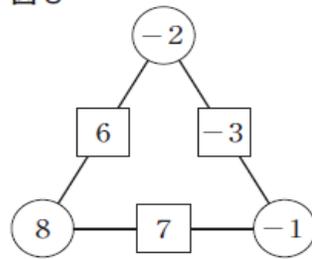
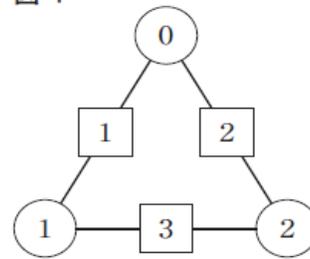


図 4



千夏さんは、図 2、図 3、図 4 を見ながら、○に入れた整数の和と□に入る整数の和の間に何か関係があるのではないかと考え、次のように調べてみました。

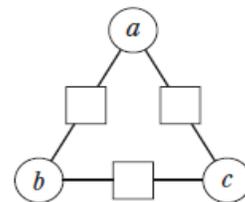
調べたこと

	○に入れた整数の和	□に入る整数の和
図 2	$1 + 3 + 6 = 10$	$4 + 9 + 7 = 20$
図 3	$(-2) + 8 + (-1) = 5$	$6 + 7 + (-3) = 10$
図 4	$0 + 1 + 2 = 3$	$1 + 3 + 2 = 6$

前ページの調べたことから、 $20 = 2 \times 10$ 、 $10 = 2 \times 5$ 、 $6 = 2 \times 3$ のように、「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の2倍になる」と予想することができます。この予想が成り立つことを説明します。下の説明を完成しなさい。

説明

○に入れた整数を a 、 b 、 c とすると、
3つの□に入る整数は、
 $a + b$ 、 $b + c$ 、 $c + a$ と表される。
それらの和は、



$$(a + b) + (b + c) + (c + a)$$

=

解答例

$$= 2(a + b + c)$$

$a + b + c$ は○に入れた数の和であるから

$2(a + b + c)$ は○に入れた整数の和の2倍

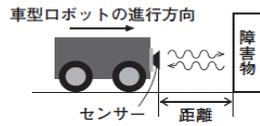
▶与えられたデータから最頻値を求めることができるかをみる問題

- 7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。
そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をすることにしました。

この設定で、海斗さんが車型ロボットを障害物に向けて走らせてみたところ、次の図1のように、設定した10 cmの位置よりも進んで止まりました。

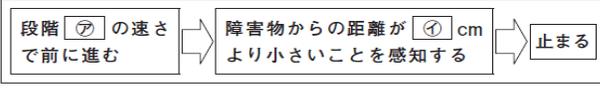
車型ロボットの説明

- 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。



- プログラムの ⑦、⑧ に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。
- ⑦ は、速さとして最も遅い段階1から最も速い段階5まで設定できる。
- ⑧ は、距離として3 cm から500 cm まで設定できる。

プログラム



海斗さんは、まず、プログラムの ⑦ に1を、⑧ に10を入れた、次のように設定しました。

海斗さんが設定したプログラム

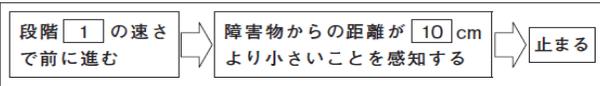
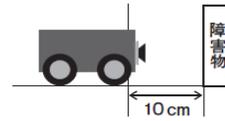
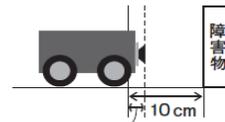


図1



そのようすを見て、海斗さんは、車型ロボットが10 cmの位置からどれくらい進んで止まるか気になりました。そこで、次の図2のように、10 cmの位置から進んだ距離を調べる実験を20回行い、その結果を下のように小さい順に並べました。

図2



10 cmの位置から進んだ距離

10 cmの位置から進んだ距離について調べた結果

1.5	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0
2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.4	2.4

(単位: cm)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 10 cmの位置から進んだ距離について調べた結果をもとに、10 cmの位置から進んだ距離の最頻値を求めなさい。

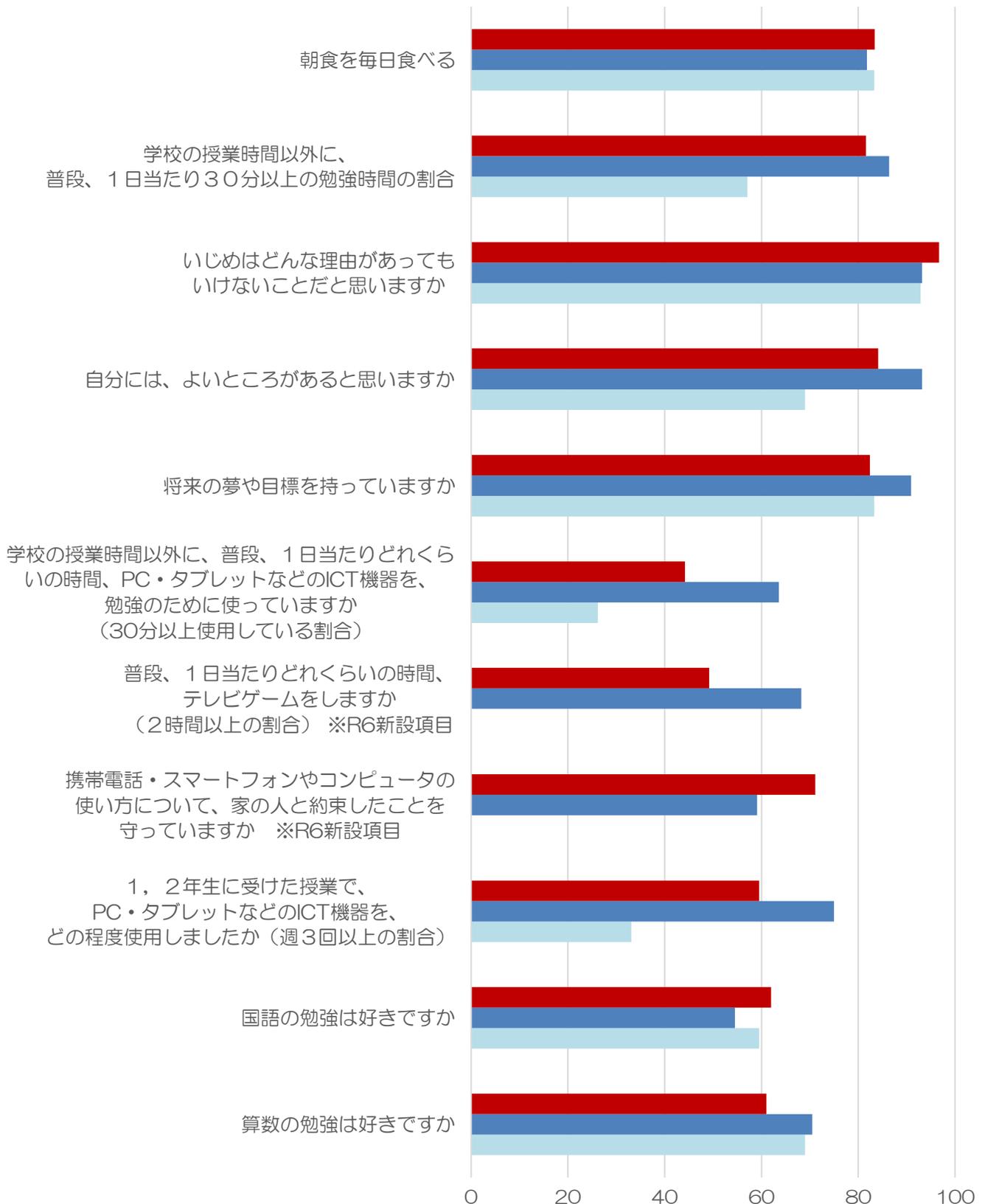
正答 1.9

⑦児童・生徒質問紙における平均回答率の国との比較

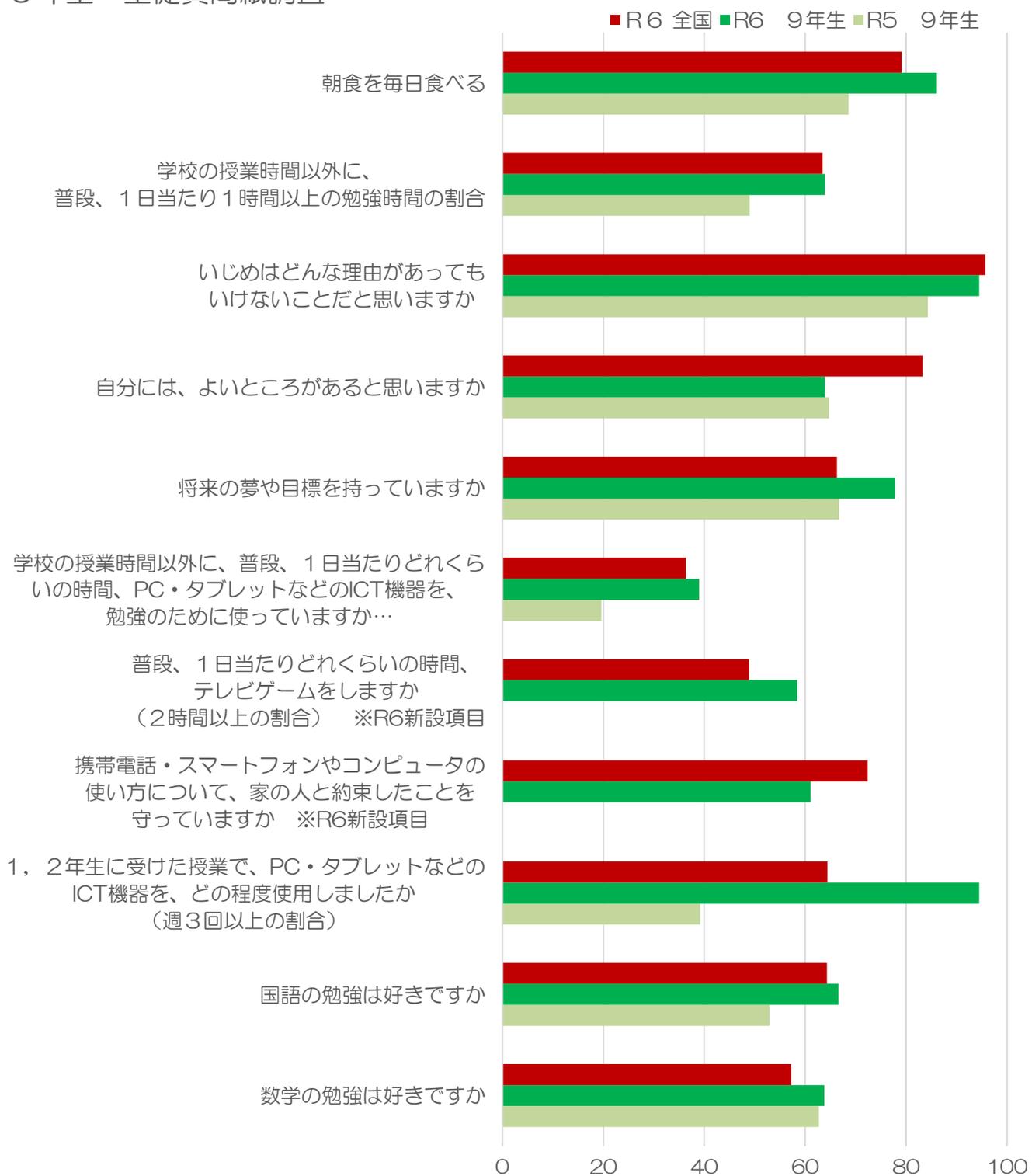
- 肯定的回答（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」）の割合を比較
- 時間や頻度を回答する質問については、質問ごとに比較する割合を記載
- 経年で比較している質問項目のうち、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の3項目については、令和6年度調査の質問項目から除外されている。
- 回答率の比較から見られる詳細や分析については、⑧にまとめて記載する。

6年生 児童質問紙調査

■ R6 全国 ■ R6 6年生 ■ R5 6年生



9年生 生徒質問紙調査



⑧ まとめ

能勢町教育委員会および能勢ささゆり学園による分析内容を総合し、以下のようにまとめ、能勢の子どもたちの学力課題の克服に向けて、授業改善等を推進する。

【教科に関する調査】

「獲得」と「定着」・「活用」から読み解く学力課題

数年来、知識・技能の定着の課題に取り組んでおり、今年度も同様の課題が見られた。経年で傾向を見極め、詳細に分析する中で、学力課題の克服に向けた一つの仮説を立てた。

それは、「定着・活用に課題があるものの、獲得をしていないわけではない」ということである。全国学力・学習状況調査をはじめ、府、町で実施している各種学力調査において、学年や教科を問わず、学習してから調査までの期間の長さが正答率に影響を与えているという傾向が見られた。例えば、9年生国語では、短歌の表現技法（体言止め）を選ぶ問題で、全国平均と正答率に大きな開きがあったのに対し、行書の特徴を選ぶ問題については全国平均を大きく上回っている。いずれも8年生の学習内容だが、短歌の表現技法は6月中旬、行書の特徴は11月下旬に学習している。一般的には、体言止めを知っている人の方が多く、簡単な問題だと感じるかもしれないが、今回の調査では逆転現象が起きている。数学についても、記述式の設問のうち、全国平均を10ポイント以上上回った設問があった。出題内容は「はこひげ図」の活用である。「はこひげ図」は8年生の2月ごろに学習した単元であり、4月当初の調査では、新鮮な記憶として残っていたのだと考えられる。

また児童生徒質問紙調査では、「算数（数学）の勉強は好きですか」という質問に対し、6年生、9年生ともに、肯定的な回答をした子どもの割合が、全国を大きく上回っていた。算数や数学は、授業などで学習している中で「わかった」「できた」という感覚がなければ、「楽しい」「好き」につながりづらい教科である。「算数（数学）の勉強はよくわかりますか」という質問についても、全国と遜色ない数値となっている。つまり、授業のその瞬間において子どもは「できた」「わかった」という感覚を得ていると考えられる。これまでの学力課題と向き合ってきた中で、教員はそれぞれに丁寧でわかりやすい授業を心がけ、実践してきた。その成果として、その授業の、その瞬間には「知識」や「技能」を獲得している子どもが多いのではないかと考えられる。ただし、「獲得」が「定着」につながらず、調査本番にはその力が発揮できていないという点、もしくは、「獲得」しているものを、必要な場面で「活用」できていない点こそが、克服すべき課題であると考えられる。

「獲得」が「定着」につながらない要因として、長年の課題となっている学習習慣が挙げられる。

「知識・技能」を定着させるには、獲得したものを使う場面が必要である。日常生活や他の授業等で使うだけでなく、予習・復習、テスト勉強、テスト後の見直しなども挙げられる。また、設問で問われていることに対して、自分の獲得している知識・技能を使えない状況、つまり「活用」に課題があるという見方もできる。その要因としては、文字情報から出題の意図等を読み取るための語彙力とスタミナに課題があると考えられる。いずれにしても、獲得した「知識・技能」を使う授業や単元の工夫が求められるのである。

具体的な方策

「知識・技能」の「活用」を意識した単元・授業の工夫および改善

タブレット端末の活用と家庭学習時間の高まり

教科に関する調査から「定着」や「活用」の課題が見られた一方で、質問紙調査からは、学校外での学習時間について、6、9年生ともに、昨年度と比較して大幅に増加しており、全国と同等の回答結果となっていることがわかった。この状況が続くことで、「定着」につながり、子どもの学力は伸びていくのかについて、継続的に注目していきたい。

また、「将来の夢や目標はありますか」という項目についても高い肯定的回答率となった。学校が組織的に地域と関わる行事や授業を展開しており、学校外の魅力的な大人に出会うことで、将来の自分の姿をイメージでき、肯定的な印象をもつ子どもが増えたのではないだろうか。「人権教育・キャリア教育の充実」についても、関連するあらゆる質問項目において、全国を上回る肯定的回答の状況が見られた。学校の組織的な集団づくり、キャリア教育の取組が、子どもが安心して学べる教室、学校を実現していると考えられ、今後もさらなる充実をめざして取組を推進していく。

さらに、タブレット端末の活用についても全国を大きく上回る肯定的回答が見られた。家庭での学習時間の増加とタブレット端末の活用については、つながっている面もある。質問項目4「学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどれぐらいの時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」では、全国を上回る肯定的回答となっており、学校でのタブレット端末の活用が、自宅でのICT機器を使った学習につながり、それに伴い、家庭での学習時間が増加している。

しかし、家庭学習での活用については、それぞれの学年・学級・教科がより効果的な方法を模索している段階でもあり、今の取組を磨くとともに、効果的な先行実践例等を積極的に取り入れていくことも進めていきたい。

また、ゲームやSNS、動画視聴でのスマホ等の使用時間も全国を大きく上回る。これに加え、スマホ利用について「家の人と約束したことを守っていますか」という項目については、6年、9年ともに全国を大きく下回っている。スマホの利用については、学習習慣への良い影響を期待する一方で、使用を自制できる力を促す指導も継続して行う必要がある。

具体的な方策

人権教育の組織的な取組の継続
ICT機器を活用した効果的な実践の蓄積と共有